











2015年12月1日 発行

水産海洋技術センターには、県内ほぼすべての漁協のセリデータが集積されています。今回は、県漁連に送られた分も含めた、八重山産イノーイユの漁獲量と平均単価の動向について報告したいと思います。

### 八重山で多く獲られている魚は？

#### 八重山産イノーイユの年間漁獲量TOP10 (トン)

※ 背景が青色の集計魚種は、複数の種類を含んだ値です。











方言名(和名または分類群)	2000	2005	2010	2011	2012	2013	2014
 いらぶちやー(ブダイ類)	52.6	32.8	31.9	30.8	26.0	25.4	28.0
 おおぼちやー(ナンヨウブダイ)	30.0	24.3	27.6	25.3	23.4	21.2	22.8
 びたろー(小型フェダイ類)	14.3	11.7	13.0	13.8	14.7	12.2	12.5
 あかじん(スジアラ)	24.5	15.5	12.0	9.9	8.7	8.6	12.4
 くちなぎ(イソフェフキ)	40.5	28.1	18.9	18.0	14.0	12.3	12.3
 たまん(ハマフェフキ)	19.1	11.9	13.1	9.8	8.0	9.7	10.0
 たこくえー(ナミハタ)	18.2	9.4	9.7	9.2	8.3	6.7	7.1
 あばさー(ハリセンボン類)	16.7	9.7	9.7	6.5	6.3	6.2	7.0
 ちぬまん(テングハギ)	16.0	6.8	5.7	5.7	6.7	9.1	6.7
 かたかし(ヒメジ類)	22.5	9.4	9.8	8.3	6.6	6.4	6.5

左の表は、近年の八重山産の沿岸性魚類(イノーイユ)の漁獲量を集計したものです。参考に、2000年と2005年の漁獲量を乗せていますが、全ての魚種で15年前に比べて漁獲量が大幅に減少しています。近年の漁獲量が最も多いのは、いらぶちやー(ブダイ複数種)で、単一の魚種ではおおぼちやー(ナンヨウブダイ)でした。ほとんどの魚種で漁獲量の減少傾向が続いていましたが、ここ数年は減少傾向が落ち着いてきているようです。2014年の統計値で特に注目すべき点は、あかじんの漁獲量が前年よりも40%以上増加している点です。あかじんの漁獲量増加については、次号で詳しく紹介したいと思います。

### セリ単価が高い魚は？

#### 八重山産イノーイユの平均単価TOP10 (円/kg)

※ 背景が青色の集計魚種は、複数の種類を含んだ値です。

方言名(和名または分類群)	2000	2005	2010	2011	2012	2013	2014
 あかじん(スジアラ)	2,236	2,236	2,239	2,248	2,241	2,164	2,117
 まくぶ(シロクラベラ)	2,113	1,787	1,689	1,777	1,837	1,861	2,028
 くるぱに(コクハンアラ)	1,862	1,982	1,812	1,775	1,885	1,818	1,909
 やーらあかじん(オオアオノメアラ)	2,016	1,730	1,710	1,577	1,628	1,567	1,562
 あーら(マハタモドキ)	1,307	1,621	1,253	1,376	1,365	1,245	1,551
 たかばー(ツチホゼリ)	1,662	1,524	1,352	1,397	1,409	1,297	1,407
 赤みーばい(ユカタハタ等)	1,407	1,280	1,292	1,361	1,390	1,233	1,303
 ゆだやー(マダラハタ)	1,620	1,457	1,328	1,344	1,346	1,300	1,301
 赤魚(トガリエビス)	950	1,367	1,153	1,060	1,053	1,183	1,268
 長尾みーばい(バラハタ属)	1,613	1,450	1,266	1,377	1,318	1,258	1,263

こちらは、年間の生産金額(円)を漁獲量(kg)で割った平均単価(円/kg)の上位10銘柄を集計したものです。10銘柄のうち、8銘柄をみーばい類が占めており、八重山の沿岸漁業にとってみーばい類が重要であることが分かります。価格の動向としては、上位の魚種で15年前、10年前に比べて低迷している傾向が見られますが、ここ5年間ではおおむね横ばいか、微増傾向にあります。またまくぶでは、近年単価が回復している傾向があります。あかじん・まくぶでは、漁獲体長制限が設定されていますが、重要性が高いからこそ、資源を有効利用する努力が必要ですね。

